

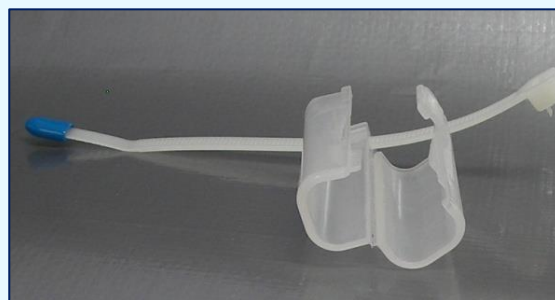
# 気管チューブ用バイトブロック バイトセーフ

## 筒状開閉式のバイトブロックで簡単に装着・取り外し可能

- 吸引ライン・インフレーションラインの保護可能
- 半透明でマーク等の確認が可能
- 潰瘍のリスク減少(コアキシャルタイプ)
- タイバンドでしっかり固定可能
- 従来のC型タイプに比べ取扱操作が容易



バイトセーフクリア MG100 C



バイトセーフ MG100

カタログ番号	品名・仕様	単価	価格(税別)
MG100 C	バイトセーフ クリア 20 個入り/箱 チューブ推奨サイズ(吸引ライン付): 7~8.5mm 材質: ポリプロピレン	¥800	¥16,000
MG100	バイトセーフ 20 個入り/箱 チューブ推奨サイズ(吸引ライン付): 7~8.5mm 材質: ポリプロピレン	¥800	¥16,000

■ 発売元



株式会社 **メディカルプロジェクト**

静岡県葵区大鋸町 1 番地の 12

TEL 054-252-1141 FAX 054-254-0574

■ 製造元



岳南有機株式会社

# バイトセーフ MG100 取扱説明書 使用前に必ずお読みください!

施設の手順・方法にしたがい気管内チューブを固定してください。

- 【使用方法】** チューブ推奨サイズ : 7~8.5mm (吸引ライン付) 材質: ポリプロピレン
- 施設のプロトコルにしたがい気管チューブを挿入してください。
  - カフ用インフレーションライン、吸引ラインを気管チューブに沿ってピンと張ります。【図1】
  - バイトセーフの“ロックつまみ”が内側に向くように気管チューブの上にかぶせます。【図2】
- 注1** 必ず両ラインともバイトセーフの中に納まるようにかぶせてください。  
**注2** 口角の反対側の場合はロックつまみの上下が逆になります。【図8】  
**注3** バイトセーフの上下をロックする際に各ラインを挟まないように注意して下さい。【図12】  
**注4** 付属タイバンドを気管チューブにしっかりと固定し先端から2.5cm以上切り落としブルーキャップをしっかり奥まで角ができるようにかぶせます。【図5】【図6】  
**注5** インフレーションラインと吸引ラインをタイバンドと気管チューブの間に挟み込まないように注意して下さい。【図13】  
**注6** バイトセーフと気管チューブの固定を確実にして下さい。  
**注7** バイトセーフを外す場合には鉗子等を使用してタイバンドを絞めます。  
 バイトセーフのロックつまみで解除し、静かに手元側に引き抜き取り外します。

## 危険な使用例



- ×インフレーションライン、吸引ラインがバイトセーフの中に納められていない
- ×インフレーションライン、吸引ラインがバイトセーフの上下に挟まっている
- ×インフレーションライン、吸引ラインがタイバンドの内側に挟まっている

- <注意・警告事項>**
- ◆ バイトセーフは一人患者用です。
  - ◆ 専門の医師・看護師がご使用ください。
  - ◆ 本品は医療機器との併用による補助的な雑貨品であり生命維持を目的とした製品ではありません。
  - ◆ 本品は医療機器との併用による補助的な雑貨品でありチューブ固定、チューブ保護の確実性を保証するものではありません。痙攣・発作などで特続的に強く咬み続けるような環境下での使用は不向きです。
  - ◆ バイトセーフを気管チューブにかぶせる時には必ずインフレーションライン、吸引ラインを内に納めるようにして下さい。両ラインが外に出たまま口腔内に挿入しますと両ラインと気管チューブの分岐を損傷する可能性があります。
  - ◆ インフレーションライン、吸引ラインの取扱操作には十分お気をつけください。気管チューブとバイトセーフ内壁間での圧迫、無理な操作による損傷、折り曲げ、上下間の挟み込み等がないように十分な安全確認をして下さい。
  - ◆ インフレーションライン、吸引ラインをタイバンドと気管チューブの間に挟み込まないように注意して下さい。
  - ◆ バイトセーフと気管チューブの固定を確実にして、固定後はスライドしないか確認して下さい。
  - ◆ タイバンドの先端にかぶせるブルーキャップは脱落しにくい構造になっていますが、口腔へ落下のないよう十分にご注意ください。
  - ◆ 異常が早期に発見できるよう常に監視して下さい。
  - ◆ 挿管に関しては院内のプロトコルに従って下さい。
  - ◆ 使用によりチューブとバイトセーフの間で雑菌の増殖が考えられますので院内の手順に従って定期的に変換して下さい。交換頻度はなるべく回数数を推奨します。最長でも2日毎を推奨しますが使用環境・個人差にもよりますので絶対的ではありません。安全にご使用いただくために、使用上のプロトコル（院内の使用手順・基準）を作成して下さい。

